

岡田小学校一年生 北公民館の探検にきました

7月4日（金）、岡田小学校の一年生が生活科の学習「町探検」で北公民館にやってきました。

はじめに、大会議室で子どもたちの好きなバックミュージックの流れの中、全体で集まり、公民館と児童館の仕事の内容

や職員を紹介をしました。その後、組に分かれ、交代で各部屋の利用の仕方や片付け方、遊戯室で遊ぶ時のきまりや片付け方を説明し、折り紙や遊具で遊びました。

また、2階の大会議室では、子どもたちにはひみつにして、

「おたのしみの部屋」として腹話術をしました。子ども心に強く残ったようで、お礼の手紙の中にもたくさん、腹話術のことが書かれてありました。笑ったり、目をキラキラさせた子どもの表情に、職員的心も満たされる思いでした。

これからも、北公民館と児童館が協力し、地域の子どもも大人も気軽に集まれる場になればと思います。

「ありがとう」から見えるもの

岡田小学校人権・同和教育主任 土居 宣子

先日、松前町主催のイベント「めだかの学校」が開催され、私は、そこで、かき氷屋のおばちゃんになりました。それは、今年、私が地区のPTA理事をさせていただいているからです。驚くことに、そのかき氷は、イベントの一環なので無料でした。そのため、当然のことながら、何杯もおかわりに来て、いろんな味を試した子どももいたし、同じ味を何度かおかわりしに来た子どももいました。そのときに、ふと感じたことがあります。それは、無言で氷を受け取る場合が多いということです。職業柄、子どもたちが「ありがとう」の言葉が言えていないことが、気になっていました。一時間半の間に、自分で「ありがとう」と言った子どもは3人くらいでした。また、子どもに「ありがとう」ということを教えていたお父さんは一人、お母さんはゼロでした。そんな中で、「ありがとうって言うのよ。」と、子どもと促しているのは、お孫さんと来ているおじいちゃんやおばあちゃんでした。

は、短いあいさつにすぎません。なのに、それを使えない大人たちが増えています。もちろん、「ありがとう」だけでなく、ほかの言葉も使っていないのではないかと不安になりました。ふと、自分の生活を振り返ってみると、人とのコミュニケーションの手段として、携帯電話のメールが主流になりつつあります。メールは、相手におかまいなく打てるという便利さがありますが、ある意味では一方通行的です。しかし、あいさつはそうはいきません。相手とのやりとりをリアルタイムに交わす必要があります。あいさつすらできなくて、人とのコミュニケーションがうまくできなくなるのでは。少年犯罪が次々に起きていく今日状況の中で、まず、親である私たちが、もう一度自分たちの生き方を見直さなければならぬと思います。親の言葉・生き方は子どもにも反映し、未来につながるのですから。お父さん、お母さん方、大切な言葉、使っているでしょうか。



◀さんちゃんの腹話術
▼たのしみ、たのしみ

